

大会名称: **第34回李相栢盃日韓学生バスケットボール競技大会**

開催場所: **国立代々木競技場第二体育館**

試合区分: **No. 102**

期 日: **2011(H23)年5月22日(日)**

主審: **東 祐二**

開始時間: **17:00**

副審: **清水 幹治・蒲 健一**

終了時間: **18:35**

韓国学生	○ 82	13 -1st- 10 17 -2nd- 11 28 -3rd- 18 24 -4th- 26 -OT1- -OT2- -OT3-	● 65	日本学生
--------------------	------------------------	--	------------------------	--------------------

第34回李相栢杯日韓学生バスケットボール競技大会、第2戦。第1戦同様、韓国学生選抜がリードし、日本学生選抜が追い上げるという展開となった。韓国学生選抜は#14金(承)、#15金(鐘)のリバウンドや得点、さらに途中出場の#4張の活躍で主導権を握るが、日本学生選抜も#11比江島の活躍などで韓国学生選抜を追いつき、9点ビハインドで前半を折り返す。後半、韓国学生選抜は、速攻やアウトサイドシュートなどで日本学生選抜を突き放し、点差を20点の大台に乗せる。第3ピリオド終盤、日本学生選抜は、#13永吉、#6三浦のバスケットカウントなどで、流れを掴みかけるも、韓国学生選抜#13朴(宰)の3Pシュートでシャットアウトされてしまう。その後はアウトサイド攻勢に出る日本学生選抜だが、韓国学生選抜は同じ徹を踏まず、落ち着いてこれをかわした。#15金(鐘)が5本のダンクシュートを決めるなど、力の差を見せつけた韓国学生選抜が82-65で勝利し、第1戦の雪辱を晴らした。

第1ピリオド、サイズで勝る韓国学生選抜は試合を優位に進めるものの、精細を欠き得点が伸びない。対する日本学生選抜はターンオーバーが多く、苦しみながらも、#11比江島のカットインや3Pシュート、#14張本のバスケットカウントなどで喰らいつく。13-10と韓国学生選抜の3点リードで第1ピリオド終了。

第2ピリオド序盤、開始3分が経過して、得点は韓国学生選抜#15金の2点のみと両チーム均衡し状態が続く。しかし、韓国学生選抜は#4張を投入すると、次々に得点を挙げ、流れを引き寄せる。日本学生選抜は#11比江島の3Pシュートやスクープショット、#5辻のミドルシュートなどでなんとか一桁点差で踏ん張りをみせる。30-21と韓国学生選抜がリードを広げ前半終了。

第3ピリオド、韓国学生選抜は#11金(智)の得点や、#9朴(來)、#13朴(宰)の3Pシュートでリードを広げていく。日本学生選抜は#5辻、#8田渡の3Pシュートなどで得点を繋いでいくものの、残り2:32、31-51と20点ビハインド。ここから日本学生選抜は#13永吉のバスケットカウント、さらに激しいディフェンスからの速攻で、#6三浦がバスケットカウントを奪うなど反撃の兆しを見せる。ところが、韓国学生選抜は#4張が速攻で得点、さらにブザービーターで#13朴(宰)が3Pシュートを沈め、再び点差を広げる。58-39とし最終ピリオドへ。

第4ピリオド、早く追いつきたい日本学生選抜は#12石川の3Pシュートを皮切りに、#5辻が2本の3Pシュートを決めるなど3P攻勢に出る。しかし、韓国学生選抜も負けじと#9朴(來)、#13朴(宰)の3Pシュート、#15金(鐘)の豪快なリバウンドダンクシュートなど反撃を許さない。時間がない日本学生選抜は、#5辻の3Pシュートや#11比江島のダンクシュートなど意地を見せるが、最後まで点差を詰めることができず。82-65で韓国学生選抜が快勝した。